

『つなぐに気づき、つなぐを築く』 ワークショップの開催について

趣旨

現在、県庁内では様々な所属で環境学習に関連する事業が進められているところですが、それらの取り組みに関わるNPO等からは、同じ県行政が実施する事業でありながら、相互に関連性や連携性が低く、効果的な取り組みができていないのではないかと指摘があります。

協働部活プロジェクト*は、この課題の解決を目指して平成17年8月に立ち上がったNPOと県行政のプロジェクトチームで、適宜、議論や聞き取り調査を進めてきました。

今回のワークショップでは、各事業をフィールド別に仕分けし、同フィールド内の事業で類似点や相違点などについて担当者同士が意見交換をする中で、環境学習を学ぶ側、提供する側、関わる側にとって、効果的・効率的な連携の可能性を探り（気づき）具体的な庁内連携の実現（築き）を目指します。

*協働部活プロジェクトとはNPOと行政職員がテーマ毎にチームを組んで課題解決に取り組む新しい協働の形です。

1 NPO等からの声（問題提起）

- ・ 環境学習が飽和状態にあり選定しにくい。
- ・ 一過性の事業が多く、体系立った学習のつながりがないのではないかと。
- ・ 本来の環境学習の意義（生きる力を育むこと）を果たせていないのではないかと。
- ・ 複数の行政窓口から照会があり、事業は全て縦割りの内容である。生活の場とは、環境や福祉、教育、農林、土木等全ての分野が融合したものであるから、柔軟な事業を望む。
- ・ 現場のニーズが十分把握されていないため協働しにくい。
- ・ もっと連携してやった方が、分かりやすく効率的ではないのか。

2 目的

生活者の視点に立った総合的（横断的）効果的な環境学習事業を企画、実施する。

3 ワークショップ

進行は協働部活プロジェクトメンバーが行います。

【展開例】

次のフィールド別に事業の仕分けをする。

* 1事業に複数のフィールドが存在する場合は、中心となるものを1つ選定してください。

主に山をフィールドとする事業

主に河川をフィールドとする事業

主に田園をフィールドとする事業

主に琵琶湖をフィールドとする事業

主に地域、学校、家庭をフィールドとする事業

その他（いずれにも属さない事業）

各フィールドに分かれて、各事業の相違点、類似点、課題等の情報を共有する。

各事業のつながりの可能性（庁内協働事業やNPO協働事業の検討）とその効果について話し合う。

各班の話し合いの結果を共有する。

4 成果

環境学習担当者間でのネットワークが構築され、より総合的・効果的な環境学習の展開が期待できます。

5 フォローアップ

ワークショップで検討された庁内協働事業については、引き続き協働部活プロジェクトがコーディネートを行いその実現に努めます。